



## 第28回青森県理学療法士学会を終えて

学会長 柳谷 誠

第28回青森県理学療法士学会を青森市で開催するにあたり、小児施設としての特色と全会員の業務に役立つ企画が出来ないものかと考えました。

そこで、小児疾患の重度化による車椅子の進歩と障害者の在宅志向と社会傾向としての脱施設化を考える中で、脳卒中片麻痺患者を含む中枢性疾患に罹患する障害者が地域社会で生活していく上で、我々専門職種がどのような関わり作りが出来るのかと考えました。同時に、患者のためになる患者本位の理学療法を盛り込めないかと考えました。

そのため、障害者が地域でより良く生きる社会作りを理念に「あづましい理学療法 小児施設から地域理学療法への提言」を学会テーマとして運営を進めて参りました。

高齢者も含めたシーティング技術や福祉機器開発研究事業に携わっておられる、北海道立心身障害者総合相談所のリハビリテーション工学士の西村重男先生に、障害者が一日の中で多くの時間を過ごしている「座る」ことに着目して、ともすれば患者を移動させるためだけの軽くてスペースを取らないことに主眼を置いた車椅子から、気持ち良く長く座り続けられる椅子としての車椅子を提言して頂くべく、「あづましい『すわり』を実現するための新しい視点(アクティブ・バランス・シーティング) - 今まで使用している車椅子は乗っている人を苦しめていませんか -」をテーマに講演をして頂き、より理解を深めて頂くべく体験学習としてのワークショップを講演に続き行ないました。内容的には車椅子が合わないことからくる腰の前方へのずれによる弊害とその原因が背当ての構造からくることが十分に理解して頂けたと思います。但し対象が一般の人から専門職種に渉るために公開公演とワークショップを両方経験できないと理解が難しかったのかと反省するものです。加えて公演後に聞かれた疑問に介護保険以外で車椅子を作れないと思われているようですが、障害者手帳を持っている方は施設入所者でなければ医療として作れますので、近くの整形外科でご相談下されば結構です。

全般を振り返ってみると、思いのほか多くの人に参加して頂き実際の業務に関係した情報を必要にしている人がいることに気づかされました。今後とも患者さんのためにも他の職種と手をたずさえて業務を行なう必要性を感じました。

最後に、学会運営そのものは大きなトラブルもなく、口述発表、ポスター発表とも無事終了することが出来たのも準備委員長ならびに準備委員の努力と保健大学理学療法学科のご協力に感謝するものです。また、観客が一般の人から専門職までにわたる為に焦点が絞りにくかったにも関わらずご公演して頂いた講師の先生にも感謝するものです。

今後共、我々理学療法士が真に患者のためになるように、また他の専門職種の理解と協力が得られるべく決心を新たにして結びとさせていただきます。

## 第28回青森県理学療法士会学会印象記

今回、3月13・14日の2日間にわたって青森市で開催された第28回青森県理学療法士学会（以下、学会）に口述発表の演者として参加させて頂きました。学会へは学生の頃から手伝いや見学などで何度かお邪魔させて頂いておりましたが、見るのとやるのは大違い、私にとっていろんな意味でも勉強となった学会でした。

昨年養成校を卒業したばかりの私にとって、この1年は常に新しい症例、知識、技術等との出会いの日々でした。また、それらの知識や技術等を臨床の場に活かすために試行錯誤を繰り返し、失敗したり、先輩から指摘やご指導頂いたりしながら、何とかやっと来れた1年でもありました。そんな1年のまとめの意味も込めて、今回の学会で、最近私が興味を持っている症例と手技について発表しようと思い、演題募集に応募することに決めました。

しかし、毎日の業務と学会発表の準備を同時に

美保野病院 佐々木 梨香

進めることは私にとって至難の業でした。もともと要領の悪い私は、思うように準備が進まず毎日焦りを感じていましたが、学生時代からの友人や職場の先輩・同僚、私の発表に協力して頂いた症例自身からも励まされ、何とか発表の日を迎えることができました。ところが、いざ発表となるとどんなに前もって準備してきたつもりでも、緊張感からか質問に対しても思うように答えられず、まさに『頭が真っ白』状態となってしまい、自分の勉強不足を痛感しました。しかし、今回の学会でご指摘等頂いたことはとても参考になりました。また皆様にご報告できることがあれば、今回学んだことを活かして次の機会にも発表させて頂きたいと思えます。

最後になりましたが、今回私の学会発表に関しまして、ご協力頂きました症例様、ご指導・ご協力頂きました美保野病院の先輩方、準備委員の皆様様に深謝いたします。

## 平成15年度学術奨励賞審査の経緯と結果について

表彰委員会委員長 石川 玲

平成15年度の学術奨励賞審査の経緯と結果を報告いたします。

今年度は士会ニュース No.249号（H15.12.1発行）に「平成15年度学術奨励賞選考への応募に関するお知らせ」を掲載し、士会員から学術研究活動の業績を広く募集しました。また同時に、委員会として独自に理学療法関連の学会や研究報告会（協会学術大会、東北学会、士会学会、自治体病院・肢体不自由児関連の研究報告会、士会症例検討会等）での士会員による研究発表と、理学療法関連雑誌に掲載された研究論文に関する情報を収集しました。その結果、残念ながら士会員からは学術研究活動に関する自己申告は一件もなく、委員会が独自に調査した資料のみをもとに候補者を5名選出しました。そして、選出された5名に対してこれまでの研究業績リストを提出して頂くよう依頼し、その結果4名からリストが提出され選考資料としました。選考資料をもとに学術局長を含む委員5名で厳正に審査を実施したところ、全会一致で下記の2名が平成15年度学術奨励賞

受賞者として選考されました。

受賞者：

宇野光人氏（独立行政法人国立病院機構青森病院）  
石田水里氏（鳴海研究所清明会鳴海病院）

宇野氏は、難病である筋ジストロフィーの臨床に携わる中で長年にわたって厚生労働省神経疾患委託研究費による筋ジストロフィー研究班において研究成果を発表されており、筋ジストロフィー医療における理学療法の発展に貢献していることが高く評価されました。

石田氏は、立位での姿勢制御機構に関する研究にここ数年間取り組んでおられ、外乱が加わった際の下肢筋活動の特徴について協会学術大会で継続的に演題を発表し、また理学療法関連の全国誌に論文を複数発表していることが高く評価されました。

表彰委員会として、両氏のこれまでの研究活動を讃えると同時に今後一層理学療法の発展に貢献されることを期待しております。

また、学術奨励賞は、優れた研究成果だけでなく、日頃の学術研究活動の取り組みも審査対象となります。その中には、士会学術活動の一環である「症例検討会」も含まれておりますので、若手会員もどんどん学術奨励賞にチャレンジして頂き

たいと思います。尚、最後に、今年度は機関誌「理学療法研究 20 号」の発行が遅れておりますので、20 号に投稿された研究論文は 21 号と併せて平成 16 年度の学術奨励賞審査対象となることをお断りしておきます。

## 学術奨励賞受賞に寄せて

独立行政法人国立病院機構青森病院  
宇野光人

この度、学術奨励賞の表彰を賜り、光栄に存じております。自分の人生の中で、表彰というものにはほとんど縁がなく、家にあるのは献血をいっばいしたということでもらった賞状くらいです。しかも副賞として、豪華なクリスタルの置物や図書券（ここ数年年収が下がり続けている公務員には本当に有り難い）も戴き身が引き締まる思いでいっぱいです。

これもひとえに勤めた最初の年から総合医学会、筋ジストロフィー研究会等で発表のチャンスを与えてくれた旧国立療養所岩木病院（半ば義務化されているが）、或いはいろいろアドバイスをしてくれた共同研究者の皆さんの力添えがあったからだと思います。12 年連続で発表なんてよくネタ涸れもせずできたものと思いますが、毎日筋ジストロフィー患者と接して、自分がもう少し上手く対処していたら、もっと長く歩けたのでは、もっと長く生きられたのでは、もっと楽しい生活を送れたのではと自問自答しているうちに自然とアイデアが浮かんできたように思います。

思えば、最初のころは随分ひとりよがりやたらに難解な言葉を使用した発表が目立っていたように思います。しかし、ここ 5～6 年は筋ジストロフィーという特異なフィールドにおいても普遍性・汎用性ということをテーマにして取り組んで来たつもりです。なかでも筋強直性ジストロフィーという疾患は、一般の病院・施設でもよく見受けられるにもかかわらず、今まで適切な対応がとられていない疾患でしたので、その評価方法などの体系化に努めております。

未だに自分の力不足を痛感する日々ですが、今回の受賞を励みに、これからも多くの人の助言を戴きながら、自分の研究に一層の努力をしていきたいと思っております。ありがとうございました。

鳴海研究所清明会鳴海病院  
石田水里

そもそも、就職して研究を始めるに至ったのは、“学会で発表すれば、いろんな所へ旅行できるかなあ”という少々不純な動機があったためでした。そんな動機に従って旅を重ねるうちに、いつのまにか学会発表も恒例のものになりつつあります。学会の準備には様々苦勞もしましたが、当の期間中は行く先々の観光を楽しんで、おかげで気分はすっかりリフレッシュできるという、私にとっては魅力的な行事なのです。論文を書くに当たっては、学会発表以上に苦勞する上、残念ながら楽しみの場もありません。それでも、一つの論文を書き終えた後の解放感もなかなか気持ちのよいものです。

私がこれまで行ってきた研究は、主に学生時の卒業研究テーマを継続し発展させた内容です。このルーツともいえる卒業研究に関しては、自分一人では収拾がつかなくなり、クラスの友人達や先生方に手伝ってもらって、ようやく提出できたという思い出を忘れることはありません。当時、“もうこりごり”と心から感じた研究をナゼか続けているのは、楽しみを持ちつつやってきたおかげなのかもしれません。

もちろん、本来の目的である“臨床に貢献すること”を見失ってはいけませんので、その精神はいつも肝に銘じつつ臨んでいるつもりです。現在の研究内容では、まだまだ基礎的な段階に過ぎません。今後、臨床に応用できる内容にまで発展できるよう努力したいと考えています。

卒業研究にしてもそうでしたが、いつも周囲の方達の暖かい支えは欠かせませんでした。ご指導下さっている先生方、協力して下さる病院スタッフの皆様へ深謝致します。

# ～平成15年度定期総会議事録要約～

議長：古木名寿登（尾野病院）

書記：梅村 孝博（東北メディカル学院），佐藤 佳奈（あおもり協立病院）

議事録署名人：

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院），田澤 優子（県立あすなろ学園）

日時：平成16年3月13日（土）15:30～17:30

場所：青森県立保健大学 講堂（青森市）

出席者：出席者90名，委任状96名，計186名（成立）

議題：

第1号議案 平成15年度事業報告

第2号議案 平成15年度会計・資産報告

第3号議案 平成15年度会計・資産監査報告

第4号議案 平成16年度事業計画・予算案

第5号議案 選挙管理委員会委員の選出

第6号議案 協会代議員会提出議題

## 《議案審議》

第1号議案 平成15年度事業報告

報告：事務局長 後藤明教

- ・平成15年度の士会員数を308名（休会14名）で、新入会員は28名であった。
- ・平成16年2月29日までに会費未納者が1名あった。
- ・伊藤日出男氏が協会賞を受賞された。
- ・理学療法研究20号の発行が遅れており、長谷川 学術局長よりその理由が説明された。
- ・研究助成は2件採用され、今回の学会で発表される。
- ・冬季アジア大会準備委員会は、発展的解消となり、学術局にスポーツ理学療法部を設置した。

第2号議案 平成15年度会計・資産報告

報告：事務局長 後藤明教

第3号議案 平成15年度会計・資産監査報告

報告：監事 山田 伸

- ・平成16年3月6日（土）青森県立中央病院において監査を実施した（出席者：佐藤洋，村上三四郎，山田伸）。
- ・会計は適正に管理されていた。

## 【質疑応答】

Q. 理学療法研究第20号は、印刷を（有）アイペックに決めて予算を立てたはずだが、業者を変更した理由は？

A. 編集過程に於いて見積もりと契約内容が合わなくなったので、業者を変更することとなった。第20号は、青森市のタテプリントセンター社へ、第21号は弘前市のやまと印刷社へお願いした。

Q. 今年度、会費未納者が一人いるが、この方は平成14年度も未納なので士会の定款に合わせると退会となるのではないのか？

A. ご指摘の通りであるが、まだ本人と連絡が取れない状況で、協会と足並みをそろえ3月末までに納入されなければ、退会扱いとする。

第1・2・3号議案 承認

第4号議案 平成16年度事業計画・予算案

提案：事務局長 後藤明教

- ・士会のホームページを事業委託し、充実すると共に、士会ニュースの隔月発行など再考する。
- ・学術局の研修会は例年通り開催予定。また、各専門部会についても設置に向け準備を進めて行く。
- ・理学療法の啓蒙活動は、いろいろな企画にて継続していく。
- ・韓国水原市物理治療士会と協定書の締結。
- ・第29回の県士会学会長は、山谷光仁氏決定。
- ・第24回東北理学療法士学会準備委員会の設置。
- ・市町村合併の情報収集を行い、各ブロックの支部化へ向け活動を継続する。

## 【質疑応答】

Q. 八太郎養護園にフィリピンのPTがいますが、理事会では特別会員等の検討をしているのか。

A. まだ、本人とはコンタクトを取っていませんので、次会の理事会で検討します。

Q. 県士会の会費が高いように思われますが？

A. 現在の会費は士会設立当初からのもので、他県と比較しても特別に高いわけではない。

Q. 平成16年度予算案について、15年度ゼロ決算がいくつかの部門で見られましたが、必要として予算を立てていることと思いますので、しっかり活用して下さい。

A. 今までは、殆どボランティアで活動を行っているところもありましたので、行動費等も出したいと思います。

Q. 現在、表彰委員会が研究助成の選考も任されているが、自らが選考した人を表彰するというような不適切なケースも出てくるのが考えられますので、研究助成選考委員会は別に設けた方がいいと思われませんか？

A. 理事会でも、議題になっており、表彰委員会と助成研究選考委員会は別にする方向で検討しています。

Q. 繰越金が多いように思われる。また、会員増に伴い会費の値下げ等も考えてはどうか？

A. 機関誌「理学療法研究第20号、21号」の印刷費が予算よりだいぶ安くなったことで、繰越金が例年より多くなっている。また、会費の値下げについては現在考えていないが、理事会にて検討する。

Q. 積立金を多くしたのは何故か？また、現在の積み立ての目的は？

A. 現在の積立金は、法人化になったときの資産として必要である。また、今回多くしたのは、理学療法研究の印刷費が、予算よりも大分安くなったことで、それを充てたため。

Q. 役員の上会活動における傷害保険等に加入しているのか。また、繰越金が多いが事務局の機器整備等に充ててはどうか？

A. 現在、傷害保険には加入していませんが、今後の検討課題です。また、機器整備については、事務局のパソコン等も更新したいのですが、16年度はインターネット回線を整備する方針です。

Q. 緊急連絡網について、連絡が遅いように思われます。

A. 連絡網を見直し緊急時に対応したいと思います。

Q. 県士会から、結婚・出産祝いなど慶弔費を会員に出せないでしょうか？

A. 当士会は、学術団体であり、施設等にある互助会とは違いますので、慶弔費は出しておりません。ただ、結婚する方には祝電を送っていますので、事前に事務局へお知らせ下さい。

#### 第4号議案 承認

#### 第5号議案 選挙管理委員会委員の選出

以下のように、3名が再任された。

加藤樹哉（十和田市立中央病院）

向山勇一（五戸総合病院）

藤田恵子（三戸中央病院）

（順不同、敬称略）

#### 第5号議案 承認

#### 第6号議案 協会代議員会提出議題

・理学療法用語集の作成の必要性（理学療法専門用語の整理と統合）

理学療法で使用する用語が氾濫し、統一性がないものがあることは、どの理学療法士も感じていることと思います。このことは、臨床現場等での理学療法記録だけでなく、学術的な使用についても影響を及ぼしていると考えられます。また、近隣学会においては、用語集を出して使用頻度の高い「ことば」について標記がなされています。

日本理学療法士協会においても同様に、用語整理をし、用語集を作成し臨床、研究等に役立てる必要性があると思いますので、学術用語委員会等の委員会をつくり、関連学会と連携を図って用語整理が必要と考えます。

#### 第6号議案 承認

以上

## ～ザンジバル奮闘記～

皆さん、アフリカのタンザニアという国をご存知ですか？ヘミングウェイのスピリットを刺激したアフリカの最高峰キリマンジャロ、有名な野性動物保護区のセレンゲティ国立公園、ンゴロンゴ口火山噴火口、そして国境にはビクトリア瀑布のあるビクトリア湖を擁するインド洋に面したアフリカ東海岸の国です。この国のインド洋に浮かぶザンジバル島というところで県士会員（休会中、鶴田町）瓜田一貴君が昨年7月から海外青年協力隊の一員として派遣され理学療法士として働いています。彼は秋田の医療短大を H12 年に卒業し、

弘前大学 若山佐一  
札幌で働いておりましたが、在学中からアフリカを旅し、暖めていた夢を実現すべく協力隊に応募、採用され赴任しています。私の教え子でもあり、昨年彼から近況報告のメールを受け取り、会員に活動や考えたことなどレポートしてみてもどうかと誘い了解してくれました。協力隊員は秋田の卒業生では初めてですが、弘前の卒業生ではすでに何名か行っているという話です。今後瓜田君から不定期ですがザンジバル通信が届きますので、どうぞ楽しみに。



## ～ザンジバル通信 Part 1～

皆さん、こんにちは。私は今、協力隊としてアフリカのタンザニアで、日本と同じように理学療法士として活動しています。勤務先は、日本で言うならば国立病院にあたる、政府管轄の「ムナジモジャ病院」に勤務しています。日本で過ごしていた時は、海外の話題になかなか触れる機会が少なかったことを思い出し、今回自分が実際海外で生活することになったことを生かし、ここアフリカの様子を少しずつでも皆さんに紹介していければと思います、筆を執らせてもらうことにしました。

さて、アフリカと聞いて、皆さんはまず第一に何を想像するのでしょうか。広く乾いた大地、沢山の野生動物、サバンナに沈む夕陽、陽気なアフリカ人と様々でしょう。しかし、ここ僕の任地であるザンジバル島は、そういったイメージとは少々かけ離れた雰囲気を持っている場所です。

瓜田 一貴  
ザンジバル島は、タンザニア本土から約35Km東に位置する、インド洋に浮かぶ2つの島（Unguja島とPemba島）から成っています。真っ青な空、エメラルドグリーンから鮮やかな青に変わる綺麗な海、そして白い砂浜と珊瑚礁に囲まれ、ヤシの葉など南国植物の豊かな緑に恵まれた島です。気候は赤道付近ということもあり、熱帯性気候で1年中暑く、少し動頂けで、汗が滝のように噴き出てきます。日中は陽射しが暑いというよりも痛い!と感じる時さえあります。生まれてから雪国育ちだった自分にとっては、初めは少々辛いものがありました。今ではその暑さにもだいが慣れ、これからちょうど大雨季に入る予定でもあり、だいが暑さもやわらいできました。ただ、この季節、どうも雪がないというのが寂しいというか、正直なところ、あの肌がピリッとひきしめるような冬

の寒さを恋しく感じています。

街の様子としては、中心地である旧都のストーンタウンは、数多くのアラブ建築様式の建物と一歩踏み込みもうものなら、必ず迷ってしまう程の迷路のような路地から成っており、人々もアラブ・インド系の黒人を多く見かけます。アフリカに来たはずなのに、どこか違う国に来てしまったような感覚を与えてくれます。電気・水道は通っているし、車も走ってます。と言っても、電気は結構頻繁に停電があったり、水も場所によっては確保が難しいところもあります。また、車と言っても、日本では通常は廃車寸前のボコボコの車（フロントガラスにヒビが入っていたり、メーターが壊れていたり、窓が閉まらないetc・・・）が、数多く見かけられます。そして、なんと言っても驚きだったのは、ここタンザニアでも近年携帯電話が普及し始め、多くの島の人々が携帯電話を使用していたことです。今では、折りたたみ式の軽量で小型の機種など（カラーはまだですが・・・）も出回り始め、最新機種は日本とそう値段が変わらないほどになっています。

アフリカの人々には申し訳ないんですが、日々の食料の確保が難しかったり、もっと貧しい生活を想像していた自分にとって、正直なところ、このような現実に少々拍子抜けしてしまいました。といっても、進んでいるのは都市部のほうであって、少し賑やかなところを離れ、田舎の方に向か

うと、未舗装の道路や赤土で造られた家々がポツポツと立ち並んでいたり、裸足で生活しているといったような多くの貧しい人々を見かけます。一部分だけを見てしまうと、一見問題がないように感じますが、徐々に生活していく中で全体としてみた場合、やはり多くの貧困に苦しんでいる人々が居るといことも知りました。

他にも、いろいろ日本とは異なる点や生活・活動上、実際体験して思い・感じることはまだまだあります。それらに関しても、少しずつ伝えていければと考えています。それでは「Tutaonana！（またお会いしましょう）」。



## ～ 理学療法士求人情報～

**（社）同仁会 介護老人保健施設 やすらぎ苑**

募集人員：理学療法士・作業療法士、若干名

勤務地：（社）同仁会 介護老人保健施設 やすらぎ苑

三沢市大字三沢字淋代平 116 - 3097

担当者：理学療法士 村上

TEL；0176-59-3784，FAX；0176-59-3786

## 青森市民病院

募集職種：理学療法士（臨時職）1名

特記：平成17年度に青森市職員採用試験（常勤理学療法士）がある予定です。

問合わせ先：青森市民病院リハビリテーション科

TEL；017-734-2171（内線5124）

担当；中西功悦（理学療法士）

## ～「こども療育勉強会」講習会のご案内～

日 時：平成 16 年 7 月 17 日(土)・18 日(日) 9:00～17:00(受付 8:30～)

会 場：青森市内(予定)

講 師：今川 忠男 先生(旭川児童院 副院長 理学療法士)

内 容：症例検討(2 症例を予定)

症例検討に関連する講義

～「脳性まひ児と両親のための機能的治療アプローチ」の実際～

定 員：30 名(先着順)

定員になり次第申し込みを締め切らせて頂きます。

参加費：10,000 円(予定)

昼 食：500～600 円 程度

申込〆切：6 月 18 日(金)

申込方法：

下記の必要事項を明記の上、E メールもしくは FAX にてお申し込み下さい。尚、同一施設から多数の参加希望の場合には、施設内で取りまとめてお申し込み下さい。

- 1) 氏名(ふりがな)
- 2) 所属
- 3) 経験年数
- 4) 電話・FAX
- 5) メールアドレス(E メールでの連絡を希望する場合のみ)
- 6) 昼食注文の有無(7/17, 7/18)

講習会に関する問い合わせ及び申込先：

青森県立あすなろ学園 田澤 優子 宛

E-mail ; yuuko\_tazawa@ags.pref.aomori.jp

TEL ; 017-781-0174 (申込方法に関するお問い合わせのみ電話で受付致します)

FAX ; 017-766-4396

## 【学術局通信】

### ～研修会テーマ等に関する希望調査について～

学術局では、現在、新年度の各種研修会の計画を立案しております。

研修会の企画につきましては、できる限り会員皆様の意見を反映したいと思っております。つきましては、研修会の企画に関するご意見、ご希望を学術局新人教育部までお気軽にお寄せ頂ければ幸いです(随時受付)。テーマ、講師、開催場所など、研修会に関することであれば何でも結構です。お寄せ頂いたご意見、ご希望は今後の研修会の計画に参考とさせて頂き、できる限り優先して開催できるように検討させて頂きます。尚、希望に添えない場合もございますのでご了承下さい。

学術局新人教育部(送付・問い合わせ先)

〒039-8564 弘前市本町 66-1

弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻

長谷川 至 宛

TEL&FAX 0172-39-5981 E-mail : pthase@cc.hirosaki-u.ac.jp

## 【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

1. 平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われます。引き落とし出来るよう 各自で通帳残高の確認をしておいて下さい。通帳には、DF.初払と印字されます。
2. 口座・名義・印等の変更がありましたら、直ちに黒石病院の佐藤まで連絡下さい。折り返し、依頼書と返信用封筒をお送りします。変更の届け出は 4月8日(木)協会必着なので早めをお願いします。

会費自動引き落とし以外者へ

会費納入方法は次号でお知らせします。

どうしても 6 月 15 日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい（振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む）。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 黒石病院リハビリテーション科

佐藤 洋

TEL 0172-52-2121(217)

## 【ニュース編集部通信】

### 原稿受付に関するお知らせ

No.254 よりニュース編集部が三八・上十三支部へ移動することになりました。それに伴い、ニュース編集部長・編集委員及び三八・上十三支部担当者が下記のとおり変更となっております。

連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。ご不明な点などにつきましては、編集部長または各支部担当者までお問い合わせ下さい。

次回の原稿締切は、平成16年4月23日(金曜日)です。

原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、下記の各支部担当にフロッピーディスク、FAX、E-mail のいずれかにて送付下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~aomript/index.html>

### § ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：須藤 宗（あすなろ学園）

〒038-0003 青森市石江字江渡 101 TEL 017-781-0174 FAX 017-766-4396

E-mail：ptasunaro@hotmail.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山 10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail：ptsilver4000@yahoo.co.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）**

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添 30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373  
E-mail : reimeipt@h7.dion.ne.jp  
(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢 3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail : pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）

須藤 宗（あすなろ学園）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部(HP 担当)；安田 友久（青森労災病院）

**編集後記**

ニュース編集部が三八・上十三支部へ移動することとなりました。ニュースに関わってる 8 年が経ちます。編集部長としては 2 年半程でしょうか？会員の皆様のもとへ「内容があり、見やすく、タイムリーなニュース」をお届けできたかどうかは疑問ですが…。この点については、次期ニュース編集部長の梅村孝博氏（東北メディカル学院）に期待したいと考えます。

部長としての 2 年半も、他の編集部員、前部長である長谷川氏（弘大）に助けてもらいっぱなしでした。各支部担当者や毎月 1 回夜遅くまで編集作業に参加してくれた部員の皆さんには心から感謝します。本当にありがとうございました。

最後に一つ会員の皆様に考えて頂きたいのは、ニュースに限らないことなのですが、青森県士会の全会員に向けた県士会ニュースであるということ。よく原稿依頼の際、「準備で時間がない、業務が忙しい」などの理由で断られることが多々ありました。それも理解できるのですが、編集部員の中にも、いくつもの仕事を抱え多忙な者、普段の業務に取り組み皆さんと同じように悩んでいる者もいます。その中で作業していることを是非考えて頂きたいと思います。

愚痴になってしまいましたが、学会・研修会等で編集部員を見かけた際は、「お疲れ様でした」と声を掛けて頂ければ幸いです…。

（文責：山田）

**奥 付**

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216

南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail ; ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp